

各 位



2021年12月20日

会社名：スターティアホールディングス株式会社

代表者名：代表取締役社長 兼 グループ最高経営責任者 本郷 秀之

(コード番号 3393 東証第一部)

問合せ先：取締役 兼 グループ執行役員 植松崇夫

(TEL：03-5339-2109)

自己株式を活用した第三者割当による第6回新株予約権（行使価額修正条項付）の発行及びファシリティ契約（行使停止指定条項付）の締結に関するお知らせ

当社は、2021年12月20日開催の取締役会において、下記のとおり、SMBC日興証券株式会社（以下「SMBC日興証券」又は「割当予定先」といいます。）を割当予定先として第三者割当により新株予約権（以下「本新株予約権」といいます。）を発行すること（以下「本資金調達」といいます。）及び金融商品取引法に基づく本新株予約権に関する届出の効力発生後にファシリティ契約（以下「本ファシリティ契約」といいます。）を締結することを決議しましたので、お知らせいたします。

なお、当社は、同じく本日付で、株式会社東京証券取引所（以下「東京証券取引所」といいます。）の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付けを取得方法とする当社自己株式の取得（以下「本自己株式取得」といい、本新株予約権の発行と本自己株式取得の組み合わせによる今般の取り組みを、「本スキーム」といいます。）を決議しておりますが、本新株予約権の下限行使価額は本自己株式取得の1株当たりの取得価額（以下「本自己株式取得価額」といいます。）と同額に設定される予定ですので、本スキームの実施により、本自己株式取得価額よりも低い価額で株式が交付されることはありません。本自己株式取得に係る詳細につきましては、本日公表の「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ（会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得）」をご参照ください。なお、本自己株式取得に関する具体的な取得方法及びその内容については決定次第お知らせする予定です。

記

1. 募集の概要

(1) 割 当 日	2022年1月12日
(2) 発行新株予約権数	15,800個
(3) 発行 価 額	本新株予約権1個当たり383円（総額6,051,400円） ただし、当該時点における株価変動等諸般の事情を考慮の上で本新株予約権に係る最終的な条件を決定する日と

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

	<p>して当社取締役会が定める 2021 年 12 月 24 日から 2021 年 12 月 28 日までの間のいずれかの日（以下「条件決定日」といいます。）において、上記発行価額の決定に際して用いられた方法（詳細につきましては、下記「6. 発行条件等の合理性（1）発行条件が合理的であると判断した根拠及びその具体的内容」をご参照ください。）と同様の方法で算定された結果が上記の金額（383 円）を上回る場合には、条件決定日における算定結果に基づき決定される金額とします。</p> <p>発行価額の総額は、新株予約権 1 個あたりの金額に本新株予約権の総数である 15,800 個を乗じた金額となります。</p>
(4) 当該発行による潜在株式数	<p>潜在株式数:1,580,000 株(新株予約権 1 個につき 100 株) なお、下記「(6) 行使価額及び行使価額の修正条件」に記載のとおり行使価額が修正される場合がありますが、いかなる行使価額においても潜在株式数は、1,580,000 株で一定です。</p>
(5) 調達資金の額	1,703,451,400 円（差引手取概算額）（注）
(6) 行使価額及び行使価額の修正条件	<p>当初行使価額は、1,080 円又は下限行使価額のいずれか高い方の金額とします。</p> <p>上限行使価額はありません。</p> <p>下限行使価額は条件決定日に決定します。</p> <p>行使価額は、本新株予約権の各行使請求の効力発生日（効力発生日は本新株予約権の発行要項第 16 項第（3）号をご参照ください。）に、当該効力発生日の前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終日の売買高加重平均価格の 90%に相当する金額（円位未満小数第 2 位まで算出し、小数第 2 位を切り上げます。）に修正されますが、かかる修正後の価額が下限行使価額を下回る場合には、下限行使価額を修正後の行使価額とします。</p>
(7) 募集又は割当方法	第三者割当の方法によります。
(8) 割当予定先	SMB C 日興証券
(9) その他	<p>当社は、SMB C 日興証券との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に、本新株予約権の買取に関する契約（以下「本新株予約権買取契約」といいます。）を締結する予定です。本新株予約権買取契約において、SMB C 日興証券は、当社の書面による事前の同意がない限り、本新株予約権を当社以外の第三者に譲渡することができない旨が定められる予定です。また、当社は、本新株予約権買取契約の締結と同時に当社と SMB C 日興</p>

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

	証券との間で、本ファシリティ契約を締結する予定です。 なお、本ファシリティ契約に関する詳細につきましては、 下記「3. 本スキームの概要及び選択理由（1）本スキームの概要」をご参照ください。
--	---

(注) 調達資金の額は、本新株予約権の払込金額の総額及び本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額を合算した金額から、本新株予約権に係る発行諸費用の概算額を差し引いた金額です。なお、本新株予約権の払込金額の総額については、発行決議日の直前取引日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（以下「発行決議時基準株価」といいます。）等の数値を前提として算定した見込額であり、また、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、発行決議時基準株価を当初行使価額であると仮定し、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。本新株予約権の最終的な払込金額及び当初行使価額は条件決定日に決定され、また、本新株予約権の行使価額が修正又は調整された場合には、調達資金の額は増加又は減少します。また、本新株予約権の行使可能期間（本新株予約権の発行要項第12項に定める行使可能期間をいいます。以下同様です。）内に行使が行われない場合又は当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、調達資金の額は減少します。

※ 本新株予約権に係る条件の決定を一定期間経過後に行う理由

本新株予約権のように、新株予約権を第三者割当の方法により発行し、その行使に伴って資金を調達する手法においては、通常、発行の決議の時点で全ての条件を決定します。

しかし、当社は、本新株予約権の発行決議日と同日である本日、本自己株式取得を行う旨及び2022年3月期通期の連結業績予想の修正を公表しており、加えて今後決定・公表される予定の本自己株式取得の具体的な内容及び取得結果次第では、本日以降の当社の株価に影響が出る可能性があります。仮にかかる公表により株価の上昇が生じる場合には、かかる株価の上昇を反映せずに本新株予約権の発行条件を決定することで、当該発行条件と本新株予約権の発行時における実質的な価値との間に乖離が生じるおそれがあります。そこで、これらの公表による株価への影響が織り込まれたタイミングで本新株予約権の発行条件を決定すべく、一定期間経過後を条件決定日として設定しております。本新株予約権の払込金額は、発行決議時点の本新株予約権の価値と条件決定日時点の本新株予約権の価値のいずれか高い方を基準として決定されるため、本新株予約権の払込金額について、当社にとって不利益となる変更はなされません。

なお、本自己株式取得に関する日程（概要）につきましては以下を予定しております。

これらを踏まえて、本新株予約権の条件決定日を2021年12月24日（金）から2021年12月28日（火）までの間のいずれかの日に設定しています。

① 自己株式取得に係る事項の決定日	2021年12月20日（月）
② 東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付けの具体的な内容の決定・公表日	2021年12月22日（水）から2021年12月24日（金）までのいずれかの日
③ 東京証券取引所の自己株式立会外買付取引	2021年12月23日（木）から2021

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

(ToSTNeT-3)による買付け実施日及び取得結果の公表日	年12月27日(月)までのいずれかの日 (上記②の翌営業日)
--------------------------------	-----------------------------------

※ 本新株予約権の発行価額の決定方法

下記「6. 発行条件等の合理性(1) 発行条件が合理的であると判断した根拠及びその具体的内容」に記載のとおり、本新株予約権の発行価額は、第三者評価機関に価値算定を依頼し、当該価値算定結果に基づき決定されます。本日の発行決議に際して、発行決議時基準株価等を前提として算出された発行価額が、本新株予約権1個当たり383円という金額です。

しかし、かかる算定結果には、上述のとおり、本日の公表内容を含む各種公表に伴う株価の値動きが反映されておりません。そこで、条件決定日時点において、本日の発行の決議に際して用いた方法と同様の方法を用いて再び価値算定を行い、その結果が、本日以降の株価の上昇等を理由として383円を上回ることとなる場合には、かかる再算定結果に基づき決定される金額を本新株予約権の発行価額といたします。他方、本日(発行決議日)以降の株価の下落等により、条件決定日における再算定結果が383円以下となる場合には、かかる結果の織り込みは行わず、本新株予約権の発行価額は、383円といたします。すなわち、既存株主の利益への配慮という観点から、条件決定日における本新株予約権の価値が、発行決議日時点よりも上昇していた場合には、発行価額の決定に際してかかる上昇を考慮するものの、価値が下落していた場合には、かかる下落は反映されないということです。したがって、本新株予約権1個当たりの発行価額が、発行決議日時点における算定結果である383円を下回って決定されることはありません。

※ 本新株予約権の下限行使価額の決定方法

本新株予約権の下限行使価額は、上記「※本新株予約権に係る条件の決定を一定期間経過後に行う理由」に記載の表中②において決定・公表される本自己株式取得価額と同額とします。本自己株式取得価額よりも低い価額で株式を交付すると、既存株主の不利益となってしまう可能性があることから、本自己株式取得価額を下回る金額を行使金額として本新株予約権が行使されないように下限行使価額を定めております。

2. 募集の目的及び理由

当社は、下記「【本スキーム実施の目的】」に記載のとおり、プライム市場への移行に際して流通株式時価総額の向上及び当社の中長期的な成長に向けた資金調達のために、本新株予約権の発行と、同じく本日付で決議いたしました本自己株式取得を組み合わせ、下記「3. 本スキームの概要及び選択理由(1) 本スキームの概要」に記載の本スキームを行うこととしました。本スキームの選択にあたり、さまざまな手法を検討いたしました。下記「3. 本スキームの概要及び選択理由(2) 本スキームの選択理由【本スキームと他の手法との比較】」に記載のとおり、その他の手法との比較検討の中で、本スキームは、下記「3. 本スキームの概要及び選択理由(2) 本スキームの選択理由【本スキームの特徴】」に記載のメリットがあることから、下記「3. 本スキームの概要及び選択理由(2) 本スキームの選択理由【本スキームのデメリット・留意点】」に記載のデメリット・留意点に鑑

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

みても、本スキームの実施が当社のニーズに最も合致していると判断いたしました。そのため、本スキームを実施することにより、以下に記載するとおり、プライム市場への移行に際しての取り組み及び資金調達を行おうとするものであります。

【本スキーム実施の目的】

当社グループは、「社会のニーズとマーケットを見極め、人と企業の未来を創造し、優れた事業と人材を輩出するリーディングカンパニーを目指す」を経営理念とし、統合型デジタルマーケティングサービスである「Cloud CIRCUS」を中心に、顧客の売上増大や業務効率アップを目的とした Web アプリケーションに関するトータルソリューションを提供する「デジタルマーケティング関連事業」、顧客企業のニーズと成長に合わせた総合的なネットワークインテグレーション及びクラウドをはじめとしたシステムインテグレーションを提供し、ネットワーク機器やサービスを組み合わせたトータルのソリューションを提供する「IT インフラ関連事業」、並びに新しいビジネスの開拓に挑む IT ベンチャー企業に出資をすると同時に、当社グループの顧客基盤や IT ソリューション力といった経営資源を活用することで、投資先企業の成長をサポートする「CVC 関連事業」を展開しております。

当社グループが属する業界は、先行き不透明な景況感の中で IT 投資判断に引き続き慎重さが見られる企業もある一方で、人手不足を背景とした自動化、省力化への投資、昨今のクラウドファーストの考え方の浸透に加え、新型コロナウイルス感染症対策としてのテレワーク導入や業務のデジタルシフトへの環境整備が進む等、中堅・中小企業にとっても IT を活用した経営改革は急務となっており、市場は大きく成長しております。

このような事業環境のもと、当社グループは、2021 年 3 月期から 2025 年 3 月期までの 5 カ年を対象とした中期経営計画「NEXT'S 2025」を達成すべく、変革と成長の 2 軸によるさらなる進化を目指し事業を推進しております。

特に「デジタルマーケティング関連事業」においては、ビジネスモデルをサブスクリプションモデル（継続課金型）の SaaS 型ビジネスへと大きく転換させ、これまでの高単価フロー型サービスには手が出せなかった顧客へのハードルを下げることで、顧客獲得に繋げ、ARR（年間経常収益）の増加に取り組んでおります。さらには、「デジタルマーケティング関連事業」と「IT インフラ関連事業」の相互の顧客基盤を活かし、事業間の顧客クロスセルによるさらなる成長を目指してまいります。

上記のような成長戦略を実現させる為には、「デジタルマーケティング関連事業」においては、サービスの認知度や顧客獲得効率の向上に向けたブランディングと広告宣伝を強化するとともに、技術トレンドを正しく先読みし、重点的開発領域である「Cloud CIRCUS」において、サービスラインナップ拡大等の、適時適切なシステム開発投資を行うことが重要となります。また、「IT インフラ関連事業」においては、2021 年 9 月 30 日及び 2021 年 11 月 1 日に公表のとおり、売上・顧客基盤の拡大や仕入等のコスト削減やリベート増加等、さらには「デジタルマーケティング関連事業」へのクロスセルの増加等、当社グループの経営の効率化を企図し、当社連結子会社のスターティアリード株式会社（本社：東京都新宿区西新宿二丁目 3 番 1 号新宿モノリス19階、代表者：笠井充）（以下「スターティアリ

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ード」といいます。)が株式会社Sharp Document 21yoshida (本社：宮城県仙台市若林区卸町東二丁目2番2号、代表者：吉田淳一) (以下「SD21」といいます。)と株式会社吉田ストア (本社：福島県会津若松市川原町1番9号、代表者：吉田淳一) (以下「吉田ストア」といいます。)のITインフラ事業を譲受しており、今後もこのような積極的なM&A等の推進により収益規模の拡大を図っていく方針でございます。

当社は今般、上記方針の下でこれら成長戦略を実行していくにあたり、必要な資金を調達するとともに機動的な経営判断に対応するための財務柔軟性をより一層確保することが重要であると考え、本資金調達を行うことといたしました。

具体的には、本件の調達資金については、中期経営計画「NEXT'S 2025」の着実な達成を目指すべく、下記「4. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期(2) 調達する資金の具体的な使途」に記載のとおり、当社グループにおけるサービスラインナップ拡大と外部ソリューションとの連携強化のためのSaaSツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金、デジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金、及び上記SD21と吉田ストアの事業譲受に係る既存借入金の返済資金といった当社グループの中長期的な成長に資するものに充当する予定です。

また、上記に記載しました事業面における取り組みに加えて、当社はこれまで東証一部上場企業として株主価値に資する経営努力に努めてまいりましたが、この度、東京証券取引所の新市場区分における上場維持基準への適合状況に関する一次判定結果に関して、移行基準日時点での当社の流通株式時価総額約70.7億円がプライム市場の上場維持基準である100億円を充足していない旨の結果を受領しております。当社は、機関投資家を含めた多くの投資家の投資対象になりうる規模の時価総額(流動性)を持ち、より高いガバナンス水準を備え、投資家との建設的な対話を中心に据えて持続的な成長と中長期的な企業価値の向上にコミットする企業向けの市場であるプライム市場への移行を計画しており、新基準において流通株式時価総額が100億円を下回りスタンダード市場への移行となることによる流動性の減少、及びそれに伴う株主価値低下を回避するため、本日、本スキームの実施を決議しました。

なお、本日、別途公表しております「自己株式取得に係る事項の決定に関するお知らせ(会社法第459条第1項の規定による定款の定めに基づく自己株式の取得)」に記載のとおり、当社は、本日開催の取締役会において、会社法第459条第1項及び当社定款第40条の規定に基づき、取得価額の総額13億円及び取得し得る株式の総数130万株をそれぞれ上限に、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付けによる方法で自己株式を取得することを決議しております。当社は、東京証券取引所の定義に基づく非流通株主と分類される当社代表取締役社長兼グループ最高経営責任者である本郷秀之から、今後、当社が上記方法による自己株式の取得を決定した場合、これに応じる形で、決定された実際の取得し得る株式の総数と同数の当社普通株式を売却する意向がある旨の連絡を受けております。なお、実際の取得株式の総数は、今後、上記方法(東京証券

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付け）の具体的な内容を決定する際の株価水準を踏まえ、取得価額の総額の上限である13億円相当の株数（ただし、130万株を上限とします。）とする予定であります。当社は、本新株予約権が行使されることに伴い、本自己株式取得により取得した自己株式を十分に処分することができた場合には、流通株式時価総額の一層の向上が可能であると判断しております。

また、上記のとおり当社株式を取得する予定であります。株主価値の毀損を避けるため、本新株予約権の下限行使価額は本自己株式取得と同額に設定される予定であり、これにより本新株予約権の実際の行使価額が本自己株式取得価額を下回ることはありません。本自己株式取得については上記のとおり、既に当社株主から当社が今後決定する予定の東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付けにおける取得株式の総数と同数の売却意向を受けておりますが、実際の取得数量次第で本新株予約権の行使に伴う希薄化の抑制が一定程度図られ、さらには下限行使価額を本自己株式取得価額と同額とすることから、本スキームを一体で見た場合、1株当たりの利益の希薄化を抑え、既存株主の株主利益に資する仕組みであると考えております。

加えて、本自己株式取得に要する資金については、自己資金及び金融機関からの借入金により充当する予定ですが、当社の2021年9月30日現在における連結貸借対照表上の現金及び預金残高は3,179百万円であることから、本自己株式取得後も当社の手元流動性は十分確保できること、並びに今後も安定的に事業から生み出されるキャッシュ・フローにより現金及び預金の蓄積が見込まれることから、当社の財務健全性及び安全性は今後も担保できるものと考えております。一方、当社としては前述のとおり将来の成長に向けた事業投資等が必要であり、これらの投資へ資金を配分するために財務健全性を維持・強化することも同時に検討してまいりましたが、プライム市場への移行に向けた取り組みである本自己株式取得による自己資本の減少に対して、それを補うための資本拡充策も同時に検討する必要があると考え、本スキームにおいて本新株予約権による資金調達を行うことといたしました。

なお、当社は、流通株式時価総額向上についての計画書を提出することによりプライム市場への移行を予定しており、経過措置の適用期間内において、本新株予約権の行使を含めた計画書上の各種施策の実行により、流通株式時価総額の向上を図ってまいります。また、本資金調達を通じて上記の使途に充当することにより、中期経営計画の着実な達成を目指しながら、同時に財務健全性を維持・強化することが可能であることから、今回の本新株予約権の発行を単体として見た場合にそれに伴う希薄化を考慮しても既存株主の株式価値向上に寄与するものと考えられ、本スキームの実施は当社の事業運営との関係で合理性があると当社は判断しました。

3. 本スキームの概要及び選択理由

(1) 本スキームの概要

今回の資金調達は、当社がSMBC日興証券に対し、行使可能期間を約3年間とする行使価額修正条項付新株予約権（行使価額の修正条項の内容は、本新株予約権の発行要項第10項をご参照ください。）を第三者割当の方法によって割り当て、SMBC日興証券による本新株予約権の行使に伴って当社の資本が増加する仕組みとなっております。

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

また、当社はSMB C日興証券との間で、金融商品取引法に基づく届出の効力発生後に本新株予約権買取契約及び以下の内容を含んだ本ファシリティ契約を締結する予定です。

さらに、本資金調達に加え、自己株式の取得を実施し、取得した自己株式の一部を本新株予約権の行使に充当する予定です。

【本ファシリティ契約の内容】

本ファシリティ契約は、当社とSMB C日興証券との間で、以下のとおり、SMB C日興証券が本新株予約権を行使するよう最大限努力すること、当社の判断により、SMB C日興証券が本新株予約権を行使することができない期間を指定できること（以下「行使停止指定条項」といいます。）、当社による本新株予約権の買取義務等について取り決めるものであります。

- ① SMB C日興証券による本新株予約権の行使に関する努力義務及び任意行使
- SMB C日興証券は、行使可能期間中、下記②記載の本新株予約権の行使が制限されている場合を除き、残存する本新株予約権を行使するよう最大限努力します。

ただし、SMB C日興証券は、いかなる場合も、本新株予約権を行使する義務を負いません。

- ② 当社による行使停止要請（行使停止指定条項）

SMB C日興証券は、行使可能期間において、当社が本新株予約権の行使状況や市場環境等を総合的に勘案し、行使の停止に関する要請（以下「行使停止要請」といいます。）があった場合、行使停止期間（以下に定義します。）中、行使停止期間の開始日に残存する本新株予約権の全部について行使ができないものとされます。なお、当社は、かかる行使停止要請を随時、何回でも行うことができます。具体的には、以下のとおりです。

- 当社は、SMB C日興証券が本新株予約権を行使することができない期間（以下「行使停止期間」といいます。）として、行使可能期間内の任意の期間を指定することができます。
- 当社は、行使停止要請を行う際、当該行使停止期間の開始日の3取引日前の日まで（行使可能期間の初日を行使停止期間の開始日に設定する場合には、本ファシリティ契約の締結日）に、SMB C日興証券に通知（以下「行使停止要請通知」といいます。）を行います。なお、当社は、行使停止要請通知を行った場合、その都度プレスリリースにて開示いたします。
- 行使停止期間の開始日及び終了日は、行使可能期間内のいずれかの取引日とします。
- 当社は、SMB C日興証券に対して、当該時点で有効な行使停止要請を撤回する旨の通知（以下「行使停止要請撤回通知」といいます。）を行うことにより、行使停止要請を撤回することができます。なお、当社は、行使停止要請撤回通知を行った場合、その都度プレスリリースにて開示いたします。

- ③ 当社による本新株予約権の買取義務

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

当社は、SMB C日興証券が2025年1月31日時点で保有する本新株予約権の全部（ただし、同日に行使された本新株予約権を除きます。）を、本新株予約権1個当たりにつきその払込金額と同額で買い取る義務を負います。

また、当社が分割会社となる会社分割を行う場合に、SMB C日興証券から請求があった場合には、当社は、SMB C日興証券が保有する本新株予約権の全部を、本新株予約権1個当たりにつきその払込金額と同額で買い取る義務を負います。当社は、買い取った本新株予約権を消却します。

（2）本スキームの選択理由

上記「2. 募集の目的及び理由」に記載のとおり、新市場移行基準日における当社の流通株式時価総額は、プライム市場に上場維持可能な100億円を下回っており、当社としては、流通株式時価総額を向上させる手法を、喫緊の解決すべき課題として模索していました。本スキームは、最大で本新株予約権の潜在株式数158万株に対して130万株を上限（実際の取得株式の総数は、今後、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付けの具体的な内容を決定する際の株価水準を踏まえ、取得価額の総額の上限である13億円相当の株数（ただし、130万株を上限とします。）とする予定であります。）として本自己株式取得を行う中、実際の取得数量次第で本新株予約権の行使に伴う希薄化の抑制が一定程度図られ、さらには下限行使価額を本自己株式取得価額と同額とすることから、本スキームを一体で見た場合、1株当たりの利益の希薄化を抑え、既存株主の株主利益に資する仕組みであると考えております。

下記「【本スキームのデメリット・留意点】」記載のデメリットはありますが、当社は、上記の点を踏まえ、本スキームの実施に際し、プライム市場への移行に際して多様な手段を検討し、総合的に勘案した結果、本スキームの実施は、当社のニーズを満たしつつ、かつ既存株主の利益に資する、現時点における最良の選択であると判断しました。

【本スキームの特徴】

本スキームの特徴は、以下のとおりとなります。

① 当社のプライム市場移行への好影響

当社は、流通株式時価総額についての計画書を提出することでプライム市場への移行を予定しており、経過措置の適用期間内において本スキームが当初の想定どおりに進捗する場合には、流通株式数の向上に伴う流通株式時価総額の向上が期待でき、プライム市場への円滑な移行が可能になると考えております。

② 本新株予約権の行使に関する努力義務及び行使停止指定条項

本ファシリティ契約に基づき、行使可能期間中、(i) SMB C日興証券は本新株予約権を行使するよう最大限努力することとされており、本新株予約権の行使が進むことにより当社の資金調達及び資本増強が図られます。加えて、(ii)行使停止指定条項により、当社は、当社の判断によりSMB C日興証券に対して本新株予約権を行使しないよう要請することができ、行使停止期間中、SMB C日興証券は本新株予約権の行使ができないこととなりますので、当社は、資金需要や株価動向等を見極めながら、資金調達の時期や行使される本新株予約権の量を一定程度コントロールすることができます。

③ 希薄化

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

発行後の当社株価動向にかかわらず、本新株予約権の行使による最大増加株式数が固定されていることから、行使価額の下修正がなされた場合には潜在株式数が増加する転換社債型新株予約権付社債(いわゆる「MSCB」)とは異なり、株式価値の希薄化が限定されております。また、当社は本新株予約権の目的である当社普通株式 158 万株に対して 130 万株を上限(実際の取得株式の総数は、今後、東京証券取引所の自己株式立会外買付取引(ToSTNeT-3)による買付けの具体的な内容を決定する際の株価水準を踏まえ、取得価額の総額の上限である 13 億円相当の株数(ただし、130 万株を上限とします。)とする予定であります。)として当社株式を取得する予定であり、本新株予約権の下限行使価額は、本自己株式取得価額を下回らないように決定されます。これらによっても、株式価値の希薄化が限定されると考えております。

④ 下限行使価額

本新株予約権には下限行使価額が設定されているため、株価下落時における本新株予約権の行使に伴う当社普通株式 1 株当たり価値の希薄化というデメリットを一定程度に制限できることで、既存株主の利益に配慮した資金調達が可能となっております。具体的には、本自己株式取得価額と同額とします。

⑤ 割当予定先との約束事項

当社は、SMB C日興証券との間で締結される本新株予約権買取契約において、本新株予約権の発行及び本新株予約権の行使による当社普通株式の交付を除き、本新株予約権買取契約の締結日以降、(i)残存する本新株予約権が全て行使された日、(ii)当社が本新株予約権の発行要項に基づき SMB C日興証券が保有する本新株予約権の全部を取得し、これを消却し、かつ、本新株予約権 1 個当たりにつきその払込金額と同額を交付した日、(iii) SMB C日興証券が残存する本新株予約権の全部を他の者に譲渡した日、又は(iv)2025 年 1 月 31 日のいずれか先に到来する日までの間、SMB C日興証券の事前の書面による承諾を受けることなく、当社の株式及び当社の株式を取得する権利又は義務を有する有価証券(新株予約権、新株予約権付社債及び取得対価を当社の株式とする取得請求権又は取得条項の付された株式を含みますがこれらに限られません。)の発行又は売却(ただし、ストックオプション制度若しくは譲渡制限付株式報酬制度に関わる発行若しくは処分、株式分割、株式無償割当て、新株予約権若しくは取得請求権の行使又は取得条項の発動によるものを除きます。)を行わないことに合意する予定です。

また、当社は、SMB C日興証券との間で締結される本ファシリティ契約において、SMB C日興証券が 2025 年 1 月 31 日時点で保有する本新株予約権の全部(ただし、同日に行使された本新株予約権を除きます。)を、本新株予約権 1 個当たりにつきその払込金額と同額で買い取る義務を負うことを合意する予定です。

⑥ 譲渡制限

当社の書面による事前の同意がない限り、SMB C日興証券は本新株予約権を当社以外の第三者に譲渡することができない旨が、本新株予約権買取契約において規定される予定です。

⑦ 本新株予約権の取得事由

本新株予約権の発行要項第 14 項には、本新株予約権の取得が必要と当社取締役会が決議した場合、当社は、本新株予約権の発行日の翌日以降、当社取締役会で定める取得日

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

に、本新株予約権 1 個当たりにつきその払込金額と同額を交付して、残存する本新株予約権の全部又は一部を取得することができる旨が定められています。また、一定の組織再編が生じる場合や上場廃止その他これに準ずる事象が生じた場合に、当社が残存する本新株予約権の全部を、本新株予約権 1 個当たりにつきその払込金額と同額を交付して取得する旨も同様に規定されています。上記いずれの場合も、当社は、取得した本新株予約権を消却します。

【本スキームのデメリット・留意点】

本新株予約権については、以下の①～⑥のようなデメリットがあります。

- ① 本新株予約権の下限行使価額は、本自己株式取得価額と同額（東京証券取引所の自己株式立会外買付取引（ToSTNeT-3）による買付けの具体的な内容の決定・公表日（2021年12月22日から2021年12月24日までのいずれかの日）の終値）で設定されるため、市場環境次第では、本新株予約権の行使が当初の想定どおりに進まず、経過措置の適用期間内に流通株式時価総額が100億円以上に達しない可能性があります。
- ② 本新株予約権による資金調達は、SMBC日興証券が本新株予約権を行使した場合に限り、その行使された本新株予約権の目的である普通株式の数に行使価額を乗じた金額の資金調達がなされるものとなっているため、上記「1. 募集の概要（5）調達資金の額（新株予約権の行使に際して出資される財産の価額）」に記載された調達資金の額に相当する資金を短期間で調達することは難しくなっております。
- ③ 本新株予約権は、上記「1. 募集の概要（6）行使価額及び行使価額の修正条件」に記載された内容に従って行使価額が修正されるものであるため、SMBC日興証券が本新株予約権を全て行使したとしても同「1. 募集の概要（5）調達資金の額（新株予約権の行使に際して出資される財産の価額）」に記載された調達資金の額に相当する資金を調達できない可能性があります。
- ④ 本新株予約権の発行による資金調達は、SMBC日興証券に対してのみ本新株予約権を割り当てる第三者割当方式で行われるため、資金調達を行うために不特定多数の新投資家を幅広く勧誘することは困難です。
- ⑤ 本ファシリティ契約において、SMBC日興証券は自身の裁量によって本新株予約権を行使するよう最大限努力すること等が規定されるものの、株価や出来高等の状況によっては権利行使が進まず、資金調達及び資本増強が予定どおりに達成されない可能性があります。また、当社は、SMBC日興証券が2025年1月31日時点で保有する本新株予約権の全部（ただし、同日に行使された本新株予約権を除きます。）を、本新株予約権 1 個当たりにつきその払込金額と同額で買い取る義務を負います。
- ⑥ 本新株予約権の行使による希薄化が限定された場合においても、本新株予約権全てが行使されるとは限らないため、行使終了まで最終的な希薄化率を確定させることができません。

【本スキームと他の手法との比較】

本スキームを採用するにあたり、以下のとおり他の手法と比較を行っております。

<自己株式取得を伴わない他の手法との比較>

- ① 非流通株主による当社以外の非流通株主とならない第三者への売却等がなされれば、

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

流通株式比率は上昇し当社の課題である流通株式時価総額の改善にも寄与するものと考えられるものの、株主による売却等は株主による意思に委ねられ当社の意図のみで完結できるものではなく、また、一度に大量の株式が流通市場に出回ることが当社株式の需給環境に大きな影響を与える可能性に鑑みると、流通株式比率ひいては流通株式時価総額の向上のために当社が非流通株主に対して単独でとりうる選択肢は、自己株式取得を伴う本スキームに限られるものと考えられます。

- ② 非流通株主による当社以外の第三者への売却等を行わないことを前提に、自己株式取得も行わずに流通株式比率ひいては流通株式時価総額を向上させるには、株式の発行も選択肢となりうる場所ですが、非流通株主からの自己株式取得を伴う場合と異なり、その場合、1株当たり利益の希薄化による既存株主に与える影響が大きくなるものと考えられます。

<自己株式取得を前提とした他の手法との比較>

- ③ 自己株式を取得した後、当該自己株式を消却する方法も考えられますが、この場合当社の自己資本の減少につながり、柔軟な財務体質の維持に影響を及ぼしうること、流通株式比率は悪化若しくは向上する場合においても限定的であり、ひいては当社の課題である流通株式時価総額の改善が限定的であること、さらに【本スキーム実施の目的】に記載のとおり、中期経営計画「NEXT'S 2025」の着実な達成を目指すべく、当社グループにおけるサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のためのSaaSツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金、デジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金、及びSD21と吉田ストアの事業譲受に係る金融機関からの既存借入金の返済資金に充当することで当社の中長期的な成長に資すると考えており、消却することは望ましくないものと考えられます。
- ④ 自己株式を取得した後、公募による方法で当該自己株式を処分する手法も考えられますが、かかる手法による場合、インサイダー取引規制との関係上、かかる公募による自己株式の処分等と自己株式取得を同時に公表する必要があり、その場合、本スキームと異なり、自己株式取得における取得価額以上の価額で確実に自己株式を処分することは実務上困難であり、既存株主に希薄化が生じるリスクは避けられないものと考えます。さらに、公募による自己株式の処分は、一括での処分が可能となりますが、同時に1株当たり利益の希薄化を即時的に引き起こすため、株価に対する直接的な影響がより大きいと考えられます。
- ⑤ 自己株式を取得した後、本新株予約権の代わりに株価に連動して転換価額が修正されるMSCBを発行する手法も考えられますが、MSCBについては、その発行条件及び行使条件等は多様化しているものの、一般的には、転換により交付される株数が転換価額に応じて決定されるという構造上、転換の完了まで転換により交付される株式総数が確定しないため、株価に対する直接的な影響がより大きいと考えられます。
- ⑥ 本新株予約権の代わりに行使価額が修正されない新株予約権を発行する方法も考えられますが、株価上昇時にその上昇メリットを当社が享受できず、一方で株価下落時には行使が進まず資金調達に困難となるため、下限行使価額が高い水準に設定されており、かつ株価上昇に伴って行使価額も上昇する本新株予約権の設計は、本質的に行使価額が固定された設計の新株予約権（行使価額が修正されない新株予約権）よりも株

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

主の利益に資すると考えられます。

- ⑦ 自己株式を取得した後、第三者割当により当該自己株式を処分する方法も考えられますが、これも公募による自己株式処分と同様に、自己株式取得に係る取得価額よりも高い価額で処分することが実務上困難であり、また、同時に1株当たり利益の希薄化を一時に引き起こすため、株価に対する直接的な影響がより大きいと考えられ、加えて、割当先が相当程度の議決権を保有する大株主となるため、当社の株主構成及びコーポレート・ガバナンスに影響を及ぼす可能性があると考えられます。

4. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期

(1) 調達する資金の額（差引手取概算額）

・ 本新株予約権に係る調達資金	1,712,451,400 円
本新株予約権の払込金額の総額	6,051,400 円
本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額	1,706,400,000 円
・ 発行諸費用の概算額	9,000,000 円
・ 差引手取概算額	1,703,451,400 円

(注) 1. 本新株予約権の払込金額の総額の算定に用いた金額は、発行決議時基準株価等の数値を前提として算定した見込額です。実際の払込金額は、条件決定日に決定されます。

2. 本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は、発行決議日の直前取引日における当社普通株式の普通取引の終値を当初行使価額であると仮定し、当初行使価額で全ての本新株予約権が行使されたと仮定した場合の金額であります。実際の当初行使価額は条件決定日に決定され、また、本新株予約権の行使価額が修正又は調整された場合には、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は増加又は減少いたします。また、本新株予約権の行使可能期間内に行使が行われない場合又は当社が取得した本新株予約権を消却した場合には、本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額は減少いたします。

3. 発行諸費用の概算額には、消費税等は含まれておりません。

4. 発行諸費用の概算額は、弁護士費用、価額算定費用等の合計額であります。

(2) 調達する資金の具体的な使途

本新株予約権の発行及び行使に際して出資される財産の価額の合計額を含めた差引手取概算額は、上記(1)に記載のとおり1,703,451,400円となる予定であり、また上記「2. 募集の目的及び理由」に記載のとおり、中期経営計画「NEXT'S 2025」の着実な達成を目指すべく、当社グループにおけるサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のためのSaaSツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金、デジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金、及び上記SD21と吉田ストアの事業譲受に係る金融機関からの既存借入金の返済資金に充当する予定です。

具体的な使途	金額（千円）	支出予定時期
--------	--------	--------

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

① 当社連結子会社であるクラウドサーカス株式会社への投融資を通じたサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のための SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金	1,008,451	2022年1月～ 2023年3月
② 当社連結子会社であるクラウドサーカス株式会社への投融資を通じたデジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金	168,000	2022年1月～ 2023年3月
③ SD21 と吉田ストアの事業譲受に係る金融機関からの既存借入金の返済資金	527,000	2022年1月～ 2022年10月
合計	1,703,451	—

- (注) 1. 差引手取概算額は、上記のとおり支出する予定であり、支出するまでの間、当社の銀行預金等での安定的な金融資産で運用保管する予定であります。
2. 本新株予約権の行使状況によって資金調達額や調達時期が決定されることから、実際に調達できる資金の額及びその支出時期と現時点において想定している調達資金の額及び支出時期との間に差異が生じる可能性があります。上記資金の充当に関する優先順位としましては、実施時期が早く到来した事項から充当する予定であり、支出予定時期の期間中に本新株予約権の全部又は一部の行使が行われず、本新株予約権の行使による調達資金の額が支出予定金額よりも不足した場合には、自己資金の活用及び銀行借入等他の方法による資金調達の実施により上記記載の使途へ充当を行う予定です。なお、本新株予約権の行使時における株価推移により上記の使途に充当する支出予定金額を上回って資金調達ができた場合には、上記①及び②の使途に追加充当していく予定であります。

- ① 当社連結子会社であるクラウドサーカス株式会社への投融資を通じたサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のための SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金

当社は中期経営計画「NEXT'S 2025」においてデジタルマーケティング事業の中期ビジョンを「サブスクリプション収益モデルへの変革による高成長高収益化」、「マーケティング分野における DX を推進」と定めております。また、当社の成長モデルとして、サブスクリプション型デジタルマーケティングサービスシェアでの国内 No. 1 及びアジアへの事業展開の達成を掲げております。その実現のためには、SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」のサービスラインナップの拡大による「Cloud CIRCUS」としての機能強化と外部ソリューションの連携強化による商品強化を目的としたシステム開発が必須であると考えております。かかるシステム開発が、サブスクリプション型デジタルマーケティ

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

ングサービスシェアでの国内 No. 1 及びアジアへの事業展開を達成する基盤となると考えております。

今回の資金調達は、当社連結子会社であるクラウドサーカス株式会社（本社：東京都新宿区西新宿二丁目 3 番 1 号 新宿モノリス 21 階、代表者：北村健一）（以下「クラウドサーカス」といいます。）への投融資を通じたサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のための SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金として 2022 年 1 月から 2023 年 3 月までに 1,008,451 千円を充当する予定です。

- ② 当社連結子会社であるクラウドサーカス株式会社への投融資を通じたデジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金

上記①に加え、当社は中期経営計画「NEXT'S 2025」においてデジタルマーケティング事業の主要 KPI である SaaS 売上の拡大とアカウント数の増加のためには、SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」の認知度の向上が必須であると考えております。2020 年 3 月期から開始し、現在第 3 弾まで展開しているクラウドサーカスにおける TVCM を含む広告宣伝の活用が、放映後の検索時サイト表示数の増加もみられることから、効果的であると認識しております。

今回の資金調達は、クラウドサーカスにおける上記広告宣伝強化に係る運転資金として 2022 年 1 月から 2023 年 3 月までに 168,000 千円を充当する予定です。

- ③ SD21 と吉田ストアの事業譲受に係る金融機関からの既存借入金の返済資金

当社は、SD21 及び吉田ストアの IT インフラ事業について、当社連結子会社として新設したスターティアリードが譲受し、2021 年 11 月 1 日より事業を開始しました。かかる事業譲受により、当社の IT インフラ事業は全国に展開することになり、売上・顧客拡大に加え、経営の効率化が期待できます。さらにはデジタルマーケティング事業へのクロスセルも期待ができ、当社グループの企業価値の向上に資するものです。今後当社がさらなる企業価値向上の実現を目指し、事業成長のための将来的な M&A、資本・業務提携等に係る投資を実施するにあたっては、自己資本の拡充による財務基盤の強化及び借入金の低減による十分な資金調達余力の確保を図ることも重要であると考えております。

今回の調達資金は、上記事業譲受に係る金融機関からの借入金の返済資金として 2022 年 1 月から 2022 年 10 月までに 527,000 千円を充当する予定であります。

なお、上記事業譲受及び事業開始に関する詳細は、2021 年 9 月 30 日付で公表した「当社連結子会社による事業譲受に関するお知らせ」及び 2021 年 11 月 1 日付で公表した「約 5,000 社の顧客を有する SD21 と吉田ストアの IT インフラ事業を譲受 11 月 1 日（月）からスターティアリードとして事業開始～全国展開で中小企業の IT 活用・デジタルシフトを支援！事業相互クロスセルも期待～」をご参照ください。

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

5. 資金使途の合理性に関する考え方

本新株予約権の発行及び割当予定先による本新株予約権の行使による調達資金を上記「4. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期（2）調達する資金の具体的な使途」に記載の使途に充当することにより、中期経営計画「NEXT'S 2025」の着実な達成を目指しながら同時に財務健全性を維持・強化することが可能であることから、当社グループの中長期的な成長の実現に資するものであり、当社の経営上かかる資金使途は合理的なものであると考えております。

6. 発行条件等の合理性

（1）発行条件が合理的であると判断した根拠及びその具体的内容

当社は、本新株予約権の発行決議日と同日である本日、本自己株式取得を行う旨及び2022年3月期通期の連結業績予想の修正を公表しており、今後決定・公表される予定の本自己株式取得の具体的な内容等次第では、本日以降の当社の株価に影響が出る可能性があります。仮にかかる公表により株価の上昇が生じる場合には、本新株予約権の発行に直接付随するものではない事由による株価の上昇を反映せずに本新株予約権の発行条件を決定することで、当該発行条件と本新株予約権の発行時における実質的な価値との間に乖離が生じるおそれがあります。既存株主の利益に配慮した公正な発行条件の決定という観点から、当社は、かかる公表による株価への影響を織り込んだ上で本新株予約権の払込金額を決定すべく、発行決議日時点における本新株予約権の価値と条件決定日時点における本新株予約権の価値をそれぞれ算定し、いずれか高い方の金額を基準として本新株予約権の払込金額を決定することを想定しております。

上記想定に基づき、当社は、本新株予約権の発行要項、本新株予約権買取契約及び本ファシリティ契約に定められる諸条件を考慮し、一般的な価格算定モデルであるモンテカルロ・シミュレーションを基礎に、第三者算定機関である株式会社赤坂国際会計（本社：東京都港区元赤坂一丁目1番8号、代表者：黒崎 知岳）が算定した結果を参考として、本日（発行決議日）時点の本新株予約権の1個の払込金額を算定結果と同額の383円（本新株予約権の目的である株式1株当たり3.83円、算定時点における株価に対する割合0.3550%）としました。なお、当該算定機関は、算定時点における株価（1,080円）、当社普通株式のボラティリティ（59%）、予定配当額（14円/株）、無リスク利率（▲0.1%）及び当社の資金調達需要及び権利行使行動、並びに割当予定先の権利行使行動、株式保有動向及び株式処分コスト等を考慮した一定の前提（行使可能期間にわたって当社株式の流動性に応じた一様に分散的な権利行使がなされること、割当予定先の事務負担・リスク負担等の対価として発生が見込まれる本新株予約権に係る発行コストや本新株予約権を行使する際の株式処分コストについて、他社の公募増資や新株予約権の発行事例に関する検討等を通じて合理的と見積もられる一定の水準の割当予定先に対するコストが発生すること、等を含みます。）を想定して評価を実施しています。

本新株予約権の発行に係る有利発行性の判断は、条件決定日において本新株予約権の払込金額を最終的に決定する際に行いますが、当社は、本新株予約権の払込金額の決定方法は、既存株主の利益に配慮した合理的な方法であると判断しております。また、当社監査役4名（うち社外監査役2名）全員から、会社法上の職責に基づいて監査を行った結果、当該決定方法に基づき本新株予約権の払込金額を決定するという取締役の判断について

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

法令に違反する重大な事実は認められない旨の意見を得ております。

(2) 発行数量及び株式の希薄化の規模が合理的であると判断した根拠

本新株予約権の全てが行使された場合に交付される当社普通株式 1,580,000 株に係る議決権の数は 15,800 個であり、当社の発行済株式総数 10,240,400 株 (2021 年 9 月 30 日現在) に対して 15.43%、総議決権数 102,362 個 (2021 年 9 月 30 日現在) に対して 15.44% の希薄化が生じます。しかしながら、上記「3. 本スキームの概要及び選択理由(2)本スキームの選択理由」に記載のとおり、本自己株式取得と本新株予約権の発行をあわせて考えた場合、本自己株式取得の取得数量次第では、実質的な株式価値の希薄化を一定程度抑制することが可能となります。また、本新株予約権による資金調達、当社グループにおけるサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のための SaaS ツール群「Cloud CIRCUS」のシステム開発に係る設備投資資金、デジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝強化に係る運転資金、及び SD21 と吉田ストアの事業譲受に係る金融機関からの既存借入金の返済資金に充当することにより、将来的な企業価値向上を目指すものであり、また、比較的長期間かつ継続的な資金需要に対して適時適切な充足を図るものであることから、発行数量及び株式の希薄化の規模は合理的であると判断しました。

なお、当社普通株式の過去 3 年間 (2018 年 12 月から 2021 年 11 月まで) の 1 日当たりの平均出来高は 61,098 株であり、直近 6 か月間 (2021 年 6 月から 2021 年 11 月まで) の同出来高も 83,711 株であることから、当社普通株式は一定の流動性を有しております。一方、本新株予約権が全て行使された場合に交付されることとなる当社普通株式数 1,580,000 株を行使可能期間である約 3 年間で行使売却とした場合の 1 日当たりの数量は約 2,112 株となるため、株価に与える影響は限定的なものと考えております。また、本新株予約権の権利行使及び売却により当社株式の流動性供給が図られるものであること、割当予定先として選択した SMBC 日興証券との間で、SMBC 日興証券が本新株予約権を行使するよう最大限努力すること、その他行使停止指定条項等を規定する本ファシリティ契約を締結する予定であるとともに、当該調達資金を、さらなる成長戦略の遂行のため、上記「4. 調達する資金の額、用途及び支出予定時期 (2) 調達する資金の具体的な用途」記載の各資金用途に充当することに鑑み、発行数量の規模は合理的であるとと考えております。

加えて、①本新株予約権及び本ファシリティ契約の内容により、本新株予約権の発行による資金調達は、当社が有する選択肢の中で、当社が、上記「3. 本スキームの概要及び選択理由 (1) 本スキームの概要【本ファシリティ契約の内容】」記載の行使停止要請通知 (行使停止指定条項) の仕組みを通じて、当社の判断により株価動向等を見極めながら資金調達の時期や行使される本新株予約権の量を一定程度コントロールすることができること、②当社の判断により本新株予約権を取得することも可能であることから、本新株予約権の発行は、市場に過度の影響を与えるものではなく、希薄化の規模も合理的であると判断しました。

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

7. 割当予定先の選定理由等

(1) 割当予定先の概要

(1)	名 称	S M B C 日 興 証 券 株 式 有 限 公 司		
(2)	所 在 地	東 京 都 千 代 田 区 丸 の 内 三 丁 目 3 番 1 号		
(3)	代 表 者 の 役 職 ・ 氏 名	取 締 役 社 長 近 藤 雄 一 郎		
(4)	事 業 内 容	金 融 商 品 取 引 業 等		
(5)	資 本 金	100 億 円		
(6)	設 立 年 月 日	2009 年 6 月 15 日		
(7)	発 行 済 株 式 数	200,001 株		
(8)	決 算 期	3 月 31 日		
(9)	従 業 員 数	9,538 人 (2021 年 3 月 31 日 現 在)		
(10)	主 要 取 引 先	投 資 家 及 び 発 行 体		
(11)	主 要 取 引 銀 行	株 式 有 限 公 司 三 井 住 友 銀 行		
(12)	大 株 主 及 び 持 株 比 率	株 式 有 限 公 司 三 井 住 友 フ ィ ナ ン シ ャ ル グ ル ー プ 100%		
(13)	当 事 会 社 間 の 関 係			
	資 本 関 係	当 該 会 社 が 当 社 の 株 式 7,700 株 (2021 年 11 月 30 日 現 在。2021 年 9 月 30 日 現 在 の 当 社 の 普 通 株 式 に 係 る 総 議 決 権 数 の 0.08%) を 保 有 し て い る 他、特 筆 す べ き 資 本 関 係 は あ り ま せ ン。ま た、当 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 と 当 該 会 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 の 間 に は、特 筆 す べ き 資 本 関 係 は あ り ま せ ン。		
	人 的 関 係	当 社 と 当 該 会 社 と の 間 に は、記 載 す べ き 人 的 関 係 は あ り ま せ ン。ま た、当 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 と 当 該 会 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 の 間 に は、特 筆 す べ き 人 的 関 係 は あ り ま せ ン。		
	取 引 関 係	当 社 と 当 該 会 社 と の 間 に は、記 載 す べ き 取 引 関 係 は あ り ま せ ン。ま た、当 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 と 当 該 会 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 の 間 に は、特 筆 す べ き 取 引 関 係 は あ り ま せ ン。		
	関 連 当 事 者 へ の 該 当 状 況	当 該 会 社 は、当 社 の 関 連 当 事 者 に は 該 当 し ま せ ン。ま た、当 該 会 社 の 関 係 者 及 び 関 係 会 社 は、当 社 の 関 連 当 事 者 に は 該 当 し ま せ ン。		
(14)	最 近 3 年 間 の 経 営 成 績 及 び 財 政 状 態 (単 位 : 百 万 円。特 記 し て い る も の を 除 き ま す。)			
	決 算 期	2019 年 3 月 期	2020 年 3 月 期	2021 年 3 月 期
	連 結 純 資 産	831,277	851,482	917,254
	連 結 総 資 産	10,917,612	12,276,971	13,349,491
	1 株 当 たり 連 結 純 資 産 (円)	4,149,532.59	4,251,091.16	4,578,973.86
	連 結 営 業 収 益	369,525	398,749	447,155
	連 結 営 業 利 益	42,743	43,004	84,518
	連 結 経 常 利 益	48,456	49,848	90,752
	親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	33,310	39,282	71,739
	1 株 当 たり 連 結 当 期 純 利 益 (円)	166,551.27	196,413.43	358,695.29
	1 株 当 たり 配 当 金 (円)	42,100	64,300	—

ご 注 意 : この 文 書 は 当 社 が 本 新 株 予 約 権 の 発 行 に 関 し て 一 般 に 公 表 す る た め の 記 者 発 表 文 で あり、投 資 勧 誘 を 目 的 と し て 作 成 さ れ た も の で は あ り ま せ ン。

(注) SMBC日興証券は、東京証券取引所の取引参加者であるため、東京証券取引所に対しては反社会的勢力に該当しないことに関する確認書の提出はしていません。

(2) 割当予定先を選定した理由

当社はSMBC日興証券以外の金融機関からも資金調達に関する提案を受けましたが、SMBC日興証券より提案を受けた本スキームの手法及びその条件は、既存株主の利益に配慮し当社株式の急激な希薄化を抑制するとともに、株価動向等を見極めながらエクイティ性資金を調達し、当該資金により、当社グループの注力事業である、デジタルマーケティング事業のサービス認知・利用意向・顧客獲得効率向上のための広告宣伝費、及びサービスラインナップの拡大と外部ソリューションとの連携強化のためのシステム開発費に、また、財務柔軟性を維持・確保するためにSD21と吉田ストアの事業譲受に係る既存借入金の返済資金に充当することにより、中期経営計画「NEXT'S 2025」の着実な達成を目指すことができ、かつ流通株式数の向上に伴う流通株式時価総額の向上を図り、プライム市場への円滑な移行を行うという当社のニーズに最も合致しているものと判断しました。その上で、SMBC日興証券が上記「1. 募集の概要」及び「3. 本スキームの概要及び選択理由」に記載の本資金調達の方法の特徴その他の商品性全般に関する知識に加え、同「(1) 割当予定先の概要」に示すように、今回の資金調達の実施にあたり十分な信用力を有すること、国内外に厚い顧客基盤を有する証券会社であり今回発行を予定している本新株予約権の行使により交付される普通株式の円滑な売却が期待されること等を総合的に勘案して、SMBC日興証券への割当てを決定しました。

(注) 本新株予約権に係る割当ては、日本証券業協会会員であるSMBC日興証券により買い受けられるものであり、日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」(自主規制規則)の適用を受けて募集が行われるものです。

(3) 割当予定先の保有方針及び行使制限措置

本新株予約権買取契約において、SMBC日興証券は、当社の書面による事前の同意がない限り、本新株予約権を当社以外の第三者に譲渡することはできない旨が定められる予定です。当社の同意により、本新株予約権の譲渡が行われる場合には、事前に譲渡人の本人確認、反社会的勢力でないことの確認、行使の払込原資確認、本新株予約権及びその行使により取得する株式の保有方針の確認、本新株予約権買取契約に定められた行使制限等の権利・義務についても譲受人が引継ぐことを確認いたします。また、譲渡が行われた場合には、当社はその内容を開示いたします。

SMBC日興証券は、本新株予約権の行使により交付される当社普通株式については、借株を用いた売却の場合には、当該借株の貸主に対して返却し、その他の場合は、適時売却していく方針であることを口頭で説明を受けております。また、SMBC日興証券はいずれの場合も市場動向を勘案し、借株を用いた売却を含み適時売却を行う方針であることを口頭で説明を受けております。加えて、当社は、SMBC日興証券が、本新株予約権の行使により交付される当社普通株式について長期保有する意思を有しておらず、市場動向等を勘案し適時売却していく方針であることを口頭で確認しております。

当社とSMBC日興証券は、本新株予約権買取契約において、東京証券取引所の定める有価証券上場規程第434条第1項、同施行規則第436条第1項から第5項までの定めに基づ

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

づき、MSCB等の買受人による転換又は行使を制限する措置を講じるため、日本証券業協会の定める「第三者割当増資等の取扱いに関する規則」に従い、所定の適用除外の場合を除き、単一暦月中に本新株予約権の行使により取得される普通株式数が、本新株予約権の払込期日時点で金融商品取引所が公表している直近の当社の普通株式に係る上場株式数の10%を超える場合には、原則として、割当予定先は当該10%を超える部分に係る行使（以下「制限超過行使」といいます。）を行うことができない旨及び当社は割当予定先に制限超過行使を行わせない旨その他の同施行規則第436条第4項及び第5項に規定する内容を定める予定です。上記の他、具体的には、①割当予定先が本新株予約権を転売する場合には、あらかじめ転売先となる者に対して、上記制限超過行使に係る内容を約させること、及び②本新株予約権の行使価額が発行決議日の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値以上の場合又は本新株予約権の行使可能期間の最終2か月間においては制限超過行使を行うことができること、といった内容が定められる予定です。

（４）割当予定先の払込みに要する財産の存在について確認した内容

割当予定先であるSMB C日興証券からは、本新株予約権の払込金額の総額及び本新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の合計額に要する資金は確保されている旨、口頭で説明を受けており、同社の2022年3月期第2四半期決算短信に記載されている2021年9月30日現在の連結貸借対照表等から十分な現預金及びその他流動資産を保有していることを確認し、当社としてかかる払込みに支障はないと判断しております。

（５）株券貸借に関する契約

当社は、割当予定先であるSMB C日興証券との間で、本新株予約権の行使により取得することとなる当社普通株式の数量の範囲内で行う当社普通株式の売付け等以外の本資金調達に関わる空売りを目的として、当社普通株式の借株を行わない旨の合意をする予定であります。

なお、SMB C日興証券は当社代表取締役社長兼グループ最高経営責任者である本郷秀之との間で株券貸借取引契約の締結を行う予定であります。現時点では契約内容に関して決定した事実はありません。

8. 募集後の大株主及び持株比率

募集前（2021年9月30日現在）	
本郷 秀之	40.38%
財賀 明	4.88%
光通信株式会社	4.31%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	3.64%
スターティアホールディングス従業員持株会	3.22%
株式会社日本カストディ銀行（信託E口）	3.21%
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG(FE-AC) （常任代理人）株式会社三菱UFJ銀行	3.16%

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

古川 征且	2.66%
源内 悟	2.41%
JPMBL RE NOMURA INTERNATIONAL PLC 1 COLL EQUITY (常任代理人)株式会社三菱UFJ銀行	2.32%

- (注) 1. 2021年9月30日現在の株主名簿上の株式数によって算出しております。持株比率は発行済株式（自己株式を除きます。）の総数に対する比率を記載しております。
2. 今回の本新株予約権の募集分については、権利行使後の株式保有について長期保有を約していないため、今回の本新株予約権の募集に係る潜在株式数を反映した「募集後の大株主及び持株比率」を表示しておりません。なお、割当予定先が本新株予約権を全て行使した上で取得する当社普通株式を全て保有し、かつ、その他に新株式発行・自己株式処分・自己株式取得を行わないと仮定した場合、割当予定先に係る権利行使後の所有株式数は1,580,000株、かかる行使後の割当予定先の所有議決権数が総議決権数に占める割合は、13.37%となります（2021年9月30日現在で割当予定先が保有している当社の普通株式を除きます。）。
3. 当社は、上記の他自己株式119株（2021年9月30日現在）を保有しております。

9. 今後の見通し

当社は、本日付「特別利益の計上および通期連結業績予想の修正に関するお知らせ」にて通期の連結業績予想を修正しておりますが、当該修正後の通期連結業績予想に変更はありません。

なお、今回の調達資金は、上記「4. 調達する資金の額、使途及び支出予定時期（2）調達する資金の具体的な使途」に記載の使途に充当することにより、将来の業績に寄与するものと考えております。

10. 企業行動規範上の手続き

今般の第三者割当は、①希薄化率が25%未満であること、②支配株主の異動を伴うものではないこと（本新株予約権全てが権利行使された場合であっても、支配株主の異動が見込まれるものではないこと）から、東京証券取引所の定める有価証券上場規程第432条に定める独立第三者からの意見入手及び株主の意思確認手続きは要しません。

11. 最近3年間の業績及びエクイティ・ファイナンスの状況

(1) 最近3年間の業績（連結）

	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期
連結売上高	11,907	12,778	13,324
連結営業利益	517	732	21
連結経常利益	573	771	70
親会社株主に帰属する当期純利益又は親	323	219	△130

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

会社株主に帰属する当期純損失(△)			
1株当たり連結当期純利益又は 1株当たり連結当期純損失(△)(円)	32.15	22.45	△13.25
1株当たり配当額(円)	9.00	9.00	10.00
1株当たり連結純資産額(円)	473.95	478.24	463.06

(注) 単位：百万円(単位未満切捨て)。特記しているものを除きます。

(2) 現時点における発行済株式数及び潜在株式数の状況(2021年9月30日現在)

	株式数	発行済株式総数に対する比率
発行済株式総数	10,240,400株	100.0%
現時点の転換価額(行使価額)に おける潜在株式数の総数	—	—
下限値の転換価額(行使価額)に おける潜在株式数の総数	—	—
上限値の転換価額(行使価額)に おける潜在株式数の総数	—	—

(3) 最近の株価の状況

① 最近3年間の状況

	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期
始値	585円	472円	1,267円
高値	868円	1,312円	2,180円
安値	360円	411円	952円
終値	474円	1,248円	1,080円

(注) 2022年3月期の株価については、2021年12月17日現在で表示しております。

② 最近6か月間の状況

	2021年 7月	2021年 8月	2021年 9月	2021年 10月	2021年 11月	2021年 12月
始値	1,712円	2,036円	1,789円	1,550円	1,390円	1,134円
高値	2,180円	2,090円	1,963円	1,565円	1,512円	1,350円
安値	1,680円	1,626円	1,455円	1,354円	1,133円	1,056円
終値	2,037円	1,799円	1,549円	1,376円	1,134円	1,080円

(注) 2021年12月の株価については、2021年12月17日現在で表示しております。

③ 発行決議前営業日における株価

	2021年12月17日現在
始値	1,111円
高値	1,111円

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

安 値	1,056 円
終 値	1,080 円

(4) 最近3年間のエクイティ・ファイナンスの状況

・第三者割当による自己株式の処分（株式給付信託への追加拠出に伴うもの）

払 込 期 日	2019年8月26日
調 達 資 金 の 額	170,950,800 円（差引手取概算額）
発 行 価 額	516 円
募 集 時 に お け る 発 行 済 株 式 総 数	10,240,400 株
当 該 募 集 に よ る 発 行 株 式 数	普通株式 331,300 株
募 集 後 に お け る 発 行 済 株 式 総 数	10,240,400 株
割 当 先	資産管理サービス信託銀行株式会社（信託E口）
発 行 時 に お け る 当 初 の 資 金 使 途	諸費用支払い等の運転資金
発 行 時 に お け る 支 出 予 定 時 期	2019年8月26日以降
現 時 点 に お け る 充 当 状 況	全て充当されています。

(注) 詳細につきましては2019年8月9日付「第三者割当による自己株式の処分に関するお知らせ」をご参照下さい。

以 上

ご注意：この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

(別紙)

スターティアホールディングス株式会社
第6回新株予約権
発行要項

【発行要項（発行決議時）を挿入予定】

ご注意： この文書は当社が本新株予約権の発行に関して一般に公表するための記者発表文であり、投資勧誘を目的として作成されたものではありません。